

エッセイ あいていのある職場日記

世中 渉(よのなか・わたる)

著者プロフィール:メーカーに入社15年目の営業職。出世はおまけと割り切りつつも、上司と部下に挟まれて迷い多き日々を送る中年管理職。

「人間の限界」

我が家には「正月」をイメージするものがほとんどない。さすがに元旦の朝にはお雑煮が出てきたが夜はカレーであった。初詣などにも行かないし畳も去年(厳密には十数年)と同じ。それこそ女房に至っては…。

そのくせお年玉だけはきっちりと吸い取られ何がめでたいかさっぱりわからない。

つまらないテレビを見ながらみかんを食うのも、いいところ2日が限界である。

では会社に行きたいかという、そんなことは全くない。正月の恒例行事、年始の「挨拶回り」が待っているからだ。

年末に挨拶に行ったばかりなのに何でまた行かにならんのだ!というも思う。普段はみな「忙しい!」と言っているのに。

お客さんだって「わざわざ何度も来てもらわなくても」と思っているはずだ。いや、明らかにそんな雰囲気である。お屠蘇はともかくお茶すら出てこないのだから。

いいところ2日が限界である。

ところが今年は挨拶回りに行かずに済んだ。

何をしていたかという一日中「フリーセル(注)」をし続けていたのだ(注:パソコンに入っているトランプのゲーム)。

何でもうちの会社に「ウィルス」なるものが侵入し、ずいぶんと派手に悪さをしてくれたようで、社長から何から

みんな大騒ぎで「あれはどーなった」だの「これはどーする」だのと言いながらパソコンと格闘していた。

(正月早々精の出ることだ。「格闘」などは大晦日だけでお腹いっぱいである)

数少ない私の理解者である経理の女の子までもが「世中さんのパソコンは大丈夫ですか」などと心配もしてくれたが、無くなって困ったデータといえば「フリーセル」の「不滅の76連勝」の記録が光り輝く成績表ぐらいなもので、大騒ぎするほどのことは何もない。

むしろ新たな闘争心が湧いたくらいだ。挨拶回りに行かずに済んだことと合わせ、まさに「ウィルス」様々であった。

そんな年の初めであったが、七草を迎える頃になってようやく一連の騒動が落ち着いてきたらしい。

私は周りの喧騒をよそに「フリーセル」に没頭し、新記録まであと一歩と迫っていたわけであったが、いい加減、ゲームをし続けているのも飽きてきた。

いいところ2日が限界である。

さて、今日は何をしようか?

仕事をするフリして妄想にふけっているのは、限界なく心地よいものである。



COMPASSひろば

前号(COMPASS秋号)に寄せられたご意見の一部を紹介します

特集「顧客のこと見えていますか」について

「考え方に共感した。あとは自分の業務にどう活かすか…」
(行政事務所)

「現場の視点が重要だということがわかった」(その他業種)

「梅田和紙の事例がおもしろかった」(製造)

「同じ住宅業界なので共感した」(建設)

Let's TRY「サーバーの活用」について

「サーバーとパソコンの違いがわかった」(製造)

「かみくだいてあり、わかりやすい」(サービス)

「バックアップが参考になった」(製造)

「サーバー利用の高度化を検討中なのでちょうどよかった」
(サービス)

その他の記事、本誌全体の印象など

「販促チラシの作り方が大変役にたった」(製造)

「ADSLのことはもう知っている。光ファイバーの記事を」(サービス)

「IT投資の新型ローンが役にたった」(製造)

「ITの本にしては直接的な記事が少ない印象」(サービス)

「携帯電話のビジネス活用についてもっと事例が知りたい」(サービス)

「仕事のヒントがたくさんあった」(製造)

- ・COMPASSにこんな情報を載せて欲しい
- ・IT化のこんなことで困っている
- ・Q&AコーナーでITコーディネータに質問したい

COMPASSへのご意見・ご要望をメールで受けつけております。お気軽に投稿してください。

Eメール: compass@ric.co.jp